

雪椿通信

新潟県立近代美術館だより
Autumn & Winter 2013 NAM

vol.41

館長庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見る昭和平成の技



始まる

NiIGATAアートリンク
2013 summer
古今東西 アートの旅

20周年の第三弾、「館長・庵野秀明 特撮博物館ミニチュアで見る昭和平成の技」が11月8日(金)から来年1月21日(火)まで開催されます。

「特撮」と言えば円谷英二監督が開拓し発展させた、精巧なミニチュアで作られた街や山や海を舞台に、ゴジラやウルトラマン、スーパー・メガが活躍し、映画やテレビにワクワクしながら釘づけになった子どもの頃を思い出します。

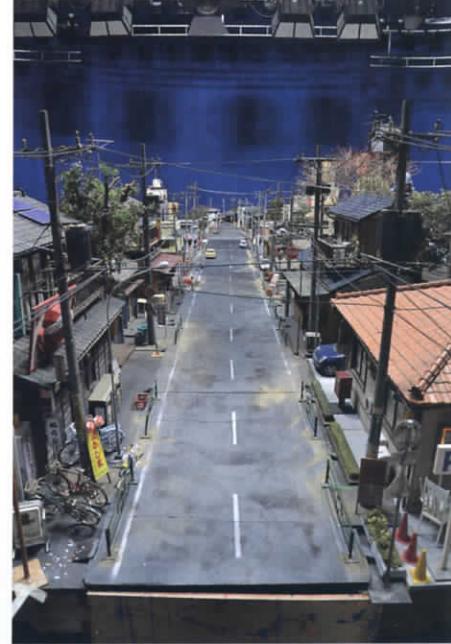
しかしきかつての特撮の語り部であり、貴重な財産であるミニチュアや小道具などは、デジタル技術の発展とともに散逸し、そのほとんどがCGによる視覚効果によって制作されるようになり、職人手作りのミニチュアセットでの特撮は、昔の物語となりつつあります。

この展覧会は、「エヴァンゲリオン」シリーズなど、数々の作品でリードしてきた監督・庵野秀明が、自らの創作活動の原点であり、多大な影響を受けてきた「特撮」のこうした状況を何とかしたいと、自らが「館長」、そして、その同志である映画監督(特技監督)・樋口真嗣を「副館長」として立ち上げた「特撮博物館」です。

特撮博物館には、昭和平成の映画・テレビで活躍したミニチュアやデザイン画など様々な資料数百点が、新潟県立近代美術館の企画展示室だけでなくコレクション展示室を加えて展示され、立体的に臨場感あふれた、その時代を作り出した職人の技と魂をも伝える展示になりました。

今回の展示をより詳しく鑑賞するには、音声ガイドもおすすめです。劇中の効果音とか音楽、関係者の証言など裏舞台も紹介され、作品の理解が間違なく深まります。

さらに、庵野監督とその仲間が特撮への熱意と第一級のプロ技術を結集して制作した、オリジナル特撮映画「巨神兵東京に現わる」をこの展覧会場限定で上映します。併せてこの展覧会ではその制作過程も詳しく展示紹介します。映画の迫力と展示をとおして日本が誇る現代の映像技術の「粋」、特撮の魅力が堪能で



きるでしょう。

また、会場ではミニチュアで作った街を間近に見ることができます。空を飛ぶウルトラマンやスーパー・メガに乗っている気分、あるいは怪獣になって火を噴き、街を蹂躪する場面も思い描けるかもしれません。さらにミニチュアセットの中に入って写真撮影可能なフォトロケーションなども用意されています。

過去と現代、未来が不思議にまぜこぜになった展覧会であり、まさに異次元の世界を体感できる展覧会です。お父さんお母さんと子ども、さらには3世代と、世代を超えた話題が広がることを願っています。東京では29万人を超える多くの来場者がありました。

秋から冬へ長岡の近代美術館が話題のスポットとなることを期待しています。

(館長 徳永健一)

上:映画「巨神兵東京に現わる」撮影セットより
左:「帰ってきたウルトラマン」(1971年) ウルトラマン(飛行シーン用)©円谷プロ

実施中! NIIGATAアートリンク古今東西アートの旅

昨年度よりスタートした美術館のネットワーク「NIIGATAアートリンク」。新潟県立近代美術館、万代島美術館、新潟市美術館に今年度は新津美術館も加わり、さらにパワーアップ。館を超えて、新潟のアートシーンがもっと楽しくなるヒントを提案していきます。プレゼントがもらえるスタンプラリー(～10月14日)も実施。詳しくは各館のチラシをご覧ください。



まだまだ盛り上がる! 20周年イベント

始まりの門出の開館20周年ロゴマーク展

4月23日(火)～5月8日(水)

長岡造形大学の学生の皆さんから募集した開館20周年を記念するロゴマーク作品、全120点を一堂に展示しました。

大賞に輝いたのは、視覚デザイン学科3年の大堀楓さんの作品です。「私が考えたロゴマークは、亀倉雄策先生がデザインされた近代美術館のロゴマークから着想を得ました。このような賞を受賞するのは初めての経験なので、嬉しい気持ちや、驚きの気持ちや、少し恥ずかしい気持ちが入り混じっています。」と、大堀さんは話しています。

同大の長谷川博紀教授は、大賞作品について、「ロゴマークの機能と条件を充たし、近代美術館の独自性を本人の視点からオリジナリティの源泉に求めました。抑制的効いた落ち着いたデザインの中に、新たな発見を織り込んでいます。」と講評されました。

お客様からは、「ロゴマークすてきでした。ぼくもかけるようになりたいです。」、「モダンだったり、クラシックだったり、手描きもCGもあり、人それぞれ個性があって、おもしろかったです。」などの感想があり、多くの皆様に楽しんでいただきました。

(副館長 立川厚生)



開館20周年記念ポスター展

7月3日(水)～7月23日(火)



20年の近代美術館の歩みを展覧会ポスターで振り返りました。

20周年記念コレクション展

6月29日(土)～8月18日(日)



コ20
周年
記念
コレクション展

近代美術館の名品が一堂に会しました。

開館20周年記念地域交流イベント「HANAを咲かそう!」



展示準備のようす



協力してたくさんの“花”をかざりました

美術館で仕事を続けてきて、つくづく思うのは、すべては「人」からはじまる、ということです。人の思いが、人ととのつながりが、魅力ある仕事に変化するように思うのです。新潟県立近代美術館には、「友の会」と「アートボランティア」という二つの組織があります。この美術館の応援団の方々と、人のつながりを広げていくことで、美術館を盛り上げることができないか…と考えました。

そこで、開館20周年を迎える、新潟県立近代美術館では、友の会及びアートボランティアとの協働企画「HANAを咲かそう!」プロジェクトを立ち上げました。皆さんの手でつながりを広げ、美術館に親しみをもってもらおうというものです。

予算のない中、内容は友の会会員及びアートボランティアが中心となって企画しました。また彼らが自ら講師となって地域に出掛け、プラスチックのコップから「フラワーコースター」を作るワークショップを行なった多くの人たちに参加していただきました。

集まった作品の数は、およそ1,000個。これを近代美術館のロビーで展示しました。ひとつひとつは小さくとも、たくさん集まると、光を受けてきらきら光り、とてもきれいです。これを見に、美術館に遊びに来てくれたワークショップ参加者もいたようです。これを機に、美術館に親しみを感じてくれると嬉しいですね。



ルーベンス展の会期中展示されました

(学芸課長代理 宮下東子)

美術鑑賞講座 開館20周年①

「新収蔵2003-2012この10年を振り返る」

7月6日(土)

平成15年度から平成24年度の収集活動を振り返りました。この10年間で、15年度には、万代島美術館の開館と第三の美術館建設問題が起り、いろんな意味で美術館の作品収集ということに県民の眼が向けられています。そして新潟県の財政危機により16年度から今まで収集費が凍結され、美術館の機能の一つが欠けている現状をお伝えし、県民の皆さんの支援をお願いしつつ、作品収集の経緯等を含めて、美術館の収集活動について紹介しました。

(専門学芸員 松矢国憲)



美術鑑賞講座 開館20周年②

「近代美術館の名品から」

7月27日(土)

近代美術館の前身、新潟県美術博物館は岸田劉生や梅原龍三郎といった近代洋画の銘品を所蔵していることで知られていましたが、西洋絵画は近代美術館の開館にあわせて、初代館長・前川誠郎の方針を基に初めて収集されたのです。この講座では当館が所蔵するデューラーやバルビゾン派の作品、そして現在開催中のルーベンスや次回展覧会のハーグ派の作品を交えて、風景画の歴史を遡りながら、当館を代表する所蔵

作品クロード・モネ
《コロンブの平原、霜》
(1873)の意義についてお話ししました。



(学芸課長 藤田裕彦)

開館記念日

7月15日(月・祝)

今年の海の日は近代美術館が開館して満20周年。そして三連休の最終日、「昨日がルーベンス展入場者1,850人、今日はなんと2,000人に達しますように…。」

昨年秋から開館20周年の記念事業を検討してきました。当日はコレクション展の無料開放と特製うちわを配布することにしました。

「幸いルーベンス展の会期中、もらってうれしいうちわを作ろう!」デザインは伊澤学芸員が担当。A面はルーベンス、B面はハーグ派展予告とし5,000枚を製作。

うちわの製作に当たり、友の会をはじめ、(株)きらめき、セコム上信越(株)、太平ビルサービス(株)様から特別協賛をいただき、とても美しいうちわができました。

開館記念日に2,000本、長岡まつりに2,000本を配布することに。さて、開館記念日当日はなんと1,998人の来館者をお迎えし、お一人ずつにうちわをプレゼントすることができました。

(総務課長 相澤敏一)



博物館実習生による作品ガイド

7月31日(水)

今年は学芸員を目指す7人の学生が、当館にて博物館実習を行いました。10日間の実習の最終日に行ったのが、この「作品ガイド」。「20周年記念コレクション展」から1点の作品選び、作品解説を行うというものです。直前の練習で互いにアドバイスをし合い、本番に臨みました。練習では硬かった表情も柔らかくなり、新鮮な視点に溢れた解説に、多くのお客様も温かく見守ってくださいました。学生からは「楽しかった」という声。実習の締めくくりに、充実した体験となったようです。



(美術学芸員 伊澤朋美)

これからのイベント

長岡大学茶道部の皆さんによるお茶会

9月28日(土)

新潟県立近代美術館はハタチを迎、二十歳前後の若い人たちとも交流したいと願いました。そこで、長岡大学にお願いして、茶道部の皆さんからお茶会をしていただくことになりました。

茶道部は長岡大学が短大の頃からの伝統あるクラブで、裏千家茶道を学んでいます。学内では新入生歓迎茶会、七夕茶会、大学祭の茶会が恒

例で、学外でもまちなかキャンパス長岡やかも川別館でも茶会をするそうです。

秋の一日、「オランダ・ハーグ派展」の鑑賞後、心穏やかなひとときを過ごしに、どうぞ近代美術館のお茶会にお寄りください。

(学芸課長代理 宮下東子)



コレクション展 近代美術館セレクト

Present for Museum 2004-2013

10月29日(火)～2014年1月26日(日)

今から10年ほど前から、当館も万代島美術館も、なかなか作品を購入することができなくなりました。それでも美術館は作品を収集しています。これらの作品は、「寄贈」という名の、一般の方々からのプレゼントと言ってよいでしょう。

本展はこれらの方々に感謝を込めて、寄贈作品だけで構成しています。プレゼントをするには人それぞれ理由がありますが、「寄贈」にあるのは新潟県の美術館に対する「想い」です。



その「想い」をこの機会に感じてみてください。

(学芸課長 藤田裕彦)

岩田正巳展を控えて

三条市出身の日本画家・岩田正巳(明治26~昭和63)が生まれてから、ちょうど120年になります。今年の干支は正巳の生年と同じ「癸巳」で、正巳という名前も、恐らく巳年生まれに由来するのでしょうか。この記念の年に(実際の開催時期は年を跨いでしまいますが)、当館では本格的な回顧展を予定しています。

正巳は、大正2年に東京美術学校に入学します。岡倉天心が没した年のことです。同級生には、後に洋画家として大成する宮芳平(堀之内出身)や矢部友衛(村上出身)がいました。正巳は、民俗学者・柳田國男の弟で、大和絵の流れをくむ日本画家・松岡映丘に師事し、仏画など古典絵画の模写に明け暮れます。他の門下生と「新興大和絵会」を結成する一方、帝展にも出品し、大和絵の清澄な色彩を生かした風景画や歴史画などを発表しました。戦後は94歳で没するまでの40数年間、ほぼ毎年日展に出品し続けます。病気などで不出品だったのはわずか5回、「精勤賞」と言ってもいいほどです。

昭和58年には当館の前身・県美術博物館

において「岩田正巳と三輪晃勢」が開催され、昭和63年に画家が没した後、三条市体育文化センターで追悼展が開かれました。その後も三条市の歴史民俗産業資料館などでたびたび展覧会が開かれていますが、この四半世紀、全画業を見渡せるような大規模な展覧は開催されませんでした。

正巳の作品は、生地の三条市を中心として、個人や企業が所蔵している場合が多いようです。いかにふるさとの人々から愛されているかがわかります。いま、展覧会の準備のために、ご所蔵者を訪問し、一点一点を拝見させていただいているところです。しかし、重要な作品でありながら、所在不明となっているものも少なくありません。

多くの人が「岩田正巳」と聞いてイメージするのは、穏やかな微笑をたたえた女性像でしょう。この温雅な作風は、戦後に確立されたものです。その一方、戦前の画業については十分に知られていないのではないでしょうか。本展では、美校時代も含め、あまり目に触れる機会のない若い頃の代表作をできるだけ紹介し、師・松岡映丘や同じグループ

で活躍した画家の作品も併せて展示します。正巳の作風のままに、決して大仰な展覧会とはなりませんが、新潟県を代表する日本画家の実像に迫る内容です。是非ご期待ください。

(主任学芸員 長嶋圭哉)



※当館での「岩田正巳展」は3月1日~4月13日、このほか三条市の三条東公民館・歴史民俗産業資料館でも1月11日~19日に生誕120年を記念する展覧会が予定されています。

近美のうらがわ ルーベンス展展示



①振動を与えないよう、美術品専用車から作品を降ろす



②詳細に点検

ルーベンス展開幕5日前、日本初公開の油彩画等82点が当館に到着しました。海外からの学芸員、作品修復家の立会いのもと、張り詰めた空気の中で搬入・点検・展示が進みました。

「400年の時間旅行を経た作品を未来につなぐ」という熱き思いが結集し、華麗なるバロック芸術の世界「ルーベンス展」が形になってきました。

(学芸課長代理 佐藤久美子)



③位置・角度・明るさを確認しながら壁に設置

お世話になつてますシリーズ

その4

A2プリンター



美術館内では、ポスターなどで「美術鑑賞講座」や「ワークショップ」等、様々なイベントの紹介をしています。そんな時、非常に便利なのが、A2サイズまでカラー印刷できるプリンターです。A2サイズとは、A3サイズ2枚分に相当します。大きいので視認性に優れています。

ただし、センスがなくては宝の持ち腐れです。お客様に分かりやすい表示を心がけて、A2プリンターと共にがんばって参ります。

(副参事 青木善治)

編集部からのひとこと

時がたつのは早いもので、今年度ももう折り返しです。あと半分しかないとさみしいですが、特撮博物館展や岩田正巳展、長岡大学学生によるお茶会など、20周年にふさわしい魅力ある展覧会や楽しい催しがまだまだございます!これまで以上に、近美的20周年を共に楽しんでいただければ幸いです。

(美術学芸員 伊澤朋美)

新潟県立近代美術館だより 雪椿通信 第41号

編集・発行 THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL0258-28-4111㈹ FAX0258-28-4115

<http://www.lalanan.gr.jp/kinbi/> e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷 株式会社 山田写真製版所 〒950-0064 新潟県新潟市東区松島1-5-14
発行日 2013年8月23日